

46

2016 . AUTUMN



NITTAIDAI

感動を、漲る力を、2020年東京へつないでいく
リオデジャネイロ報告会開催される





ひとりは世界のために

▷オリンピック・パラリンピックイヤーはあらためて特別な節目であると思う。大会前の壮行会、パブリックビューイング、そしてこのたびの報告会と、学内が一体となっていく勢いを身をもって感じた。

▷現役学生オリンピアンとの座談会では、それぞれの競技は異なるが、挑戦を続ける日体大スピリット、それを支える環境や仲間たちなど日体大の総力を再認識した。2020東京での活躍がいまから楽しみだ。

▷そして、吉田沙保里選手、伊調馨選手らを育てた本学レスリング部OBの栄和人氏は言う。「自分と向き合い、自分の感性のすべてをさらけ出す選手を作りたい」と。オール日体大も、人口70億を超えるという国際社会も、一人ひとりの存在があってこそ成り立つ。無関心でいることは許されない。それぞれがそれぞれの立場で持てる力を発揮していきたい。

学報NITTAIDAI (ニッタイダイ) 46号

発行日●2016年11月1日

発行●日本体育大学広報委員会

TEL 03-5706-0948

FAX 03-5706-0922

<http://www.nittai.ac.jp/>

制作協力●(株)図書出版

Special Contents

03 Next is TOKYO

未来へ、世界へ、架け橋となった
リオデジャネイロオリンピック・パラリンピック

07 スポーツは、世界共通の人類の文化

国際平和・交流の架け橋となる人材を輩出する
スポーツ文化学部、2017年4月新設

09 活躍するOB・OG

夢を追いつける。そして、忍耐。日本の女子レスリングを牽引してきた名指導者が語る壮絶な「自分との闘い」。

栄 和人氏

至学館大学女子レスリング部監督 日本協会強化本部長(日本レスリング協会)

興味を持ったら行動してみること。経験豊富な先生方や先輩たち、海外で活躍する日体OB・OGの人脈が皆さんを支えてくれるはず。

栗山 瑠美氏

バンコク日本人学校 養護教諭

13 保健医療学部からのメッセージ

～広がる柔道整復師の活躍の場～

『柔道整復師の“常識”を見直せ！
その歴史と可能性を徹底検証』

保健医療学部 整復医療学科 久保山和彦准教授

15 NASSの挑戦

オール日体大のハブ(拠点)として
基礎力向上を図るトレーニングサポート

17 クラブサークル成績一覧

18 トーマス・バッハ国際オリンピック委員会会長へ

日本体育大学名誉博士称号授与

19 スイス・バーゼル音楽祭で集団行動を披露



東京・世田谷キャンパス 相撲場



練習風景

Nittai Story

日体大と相撲

今年の初場所では大関・琴奨菊が、秋場所では大関・豪栄道が優勝を果たした。モンゴル勢が台頭する中で、久しぶりに日本人力士が賜杯を手にして、国技の面目躍如である。そのほか、現役力士の出身を見るとブラジル、ブルガリア、ジョージア(旧・グルジア)、エジプト、アメリカ、中国、ロシア、ハンガリーなどさまざまだ。

さて、相撲も日体大が伝統的に覇者として君臨してきた競技のひとつである。日体大相撲部は1923(大正12)年に関東学生連盟に加盟。当時は柔道部と掛け持ちのような状況であったという。1925(大正14)年に部活動として正式に承認され相撲部が創設された。ちなみに、この年に現在の「学友会」の前身と言える「日本体操会体操学校研究会」が組織され、相撲部(当時の角力部)を含む13の部が設けられている。

相撲部の歴史は90年を超える。この間、学生選手権で団体優勝を6回果たし、学生横綱・世界選手権・全日本選手権・全国体重別の優勝者を多数輩出してきた。今年、第41回全国学生相撲個人体重別選手権大会において、本学史上初、8階級中4階級で個人優勝を果たしたことは記憶に新しい快挙である。相撲部出身者では、嘉風、妙義龍、千代大龍などが、現在大相撲で活躍している。

相撲部の綱領に「人格の完成を目指し相撲道に精進せよ」とある。日本の伝統的武道は「道」の精神に基づいている。心技一如の教えに則り、礼を修め、技を磨き、身体を鍛え、心胆を錬る修業道・鍛錬法として、いわば「術」から「道」へ、精神的・文化的深まりを遂げてきた。このことを多くの外国人が理解し、相撲を愛好してくれることは非常に喜ばしいことである。

日本を知らずして世界を語ることはできない。誇りをもって伝統競技に目を向けていきたい。

Next is TOKYO

未来へ、世界へ、架け橋となった リオデジャネイロ オリンピック・パラリンピック



報告会2016年9月28日

暑い夏、感動の夏が終わった。その興奮を再現するかのよう、東京・世田谷キャンパス・メインアリーナにて報告会が実施された。今大会の健闘を讃えることはもちろんだが、各選手・関係者の目はすでに4年後の東京に向けられている。そして関係者、いまこの時を共にする学生たち、本学を志す人、すべてが日体大の絆のもとに一つになって動き始めた。私たちのこの想いを4年後の未来へ、世界へ届けていきたい。

史上最多のメダルを獲得したりリオデジャネイロオリンピック。そしてロンドン大会を超えるメダル数となったリオデジャネイロパラリンピック。この大会には多くの日体大関係者が貢献していました。その報告会が9月28日（水）に、東京・世田谷キャンパスで行われました。

当日は連日雨が続く日々の中、この日を祝すように雨が上がり、アスリートたちを祝福するためにメインアリーナには約4500名の学生・関係者が集まりました。

開会宣言の後、レスリングの選手を先頭に次々と選手が入場。金メダルを獲得した体操男子団体の選手・スタッフが最後に入場し、会場は一気にヒートアップしました。

開会に際し松浪健四郎理事長からは、「今年の夏は暑いが続いたが、日体大の学生・卒業生の皆さんがさらに私たちの胸を熱くさせてくれ、大きな感動を与えてくれました」と選手・スタッフを讃えました。

在校生でメダリストとなった、辻沙絵、樋口黎、白井健三の3選手には、特別学長賞が贈られ、同窓会からもスポーツ奨励賞がOBも含めたメダリスト7名に贈られました。

式典に続いて本学卒業生でソウル五輪レスリング金メダリストの佐藤満さんと、田中理恵児童スポーツ教育学部助教を司会に選手のトークショーが開かれました。

リオでは選手村の建物のベランダが落ちてきたことや、トイレが壊れていたことなど、選手

だけが知るエピソードや、不本意な結果であったが、次につながる試合ができたなどアスリートとして前向きなお話も聞くことができ、学生にとつて有意義な時間となりました。

トークショーの終盤では体操男子団体の選手が登場し、内村航平さんが団体で獲得した金メダルについて「自分の演技ができれば、結果がついてくる。その証が金メダルです」と、また「5人で表彰台の上で国歌を合唱したときに幸せを感じました」と感慨深げに大会を振り返りました。

トークショーの後、応援団が音頭を取り、校歌を全員で斉唱し、報告会の締めくくりは選手代表の辻沙絵選手から「多くの皆さまからサポートをいただき、よりレベルアップして自国開催の大会に臨みます」と力強い宣言と挨拶がありました。

日体大関係者63名中40名が報告会に出席してくださり、最後は会場全員の拍手に見送られ会場を後にしました。

これまで夏季、冬季併せて6000名を超すオリンピック・パラリンピック選手、コーチを送り出してきた日体大に、新たな輝かしい歴史が刻まれた日となりました。





日体大学生・関係者のおもな戦績(入賞者)

○オリンピック

金	体操・体操競技	男子 団体	内村 航平
金	体操・体操競技	男子 団体	山室 光史
金	体操・体操競技	男子 団体	白井 健三
金	体操・体操競技	男子 個人総合	内村 航平
銀	レスリング	男子 フリースタイル 57kg級	樋口 黎
銀	レスリング	男子 グレコローマスタイル 59kg級	太田 忍
銅	水泳・シンクロナイズドスイミング	チーム	箱山 愛香
銅	体操・体操競技	男子 種目別跳馬	白井 健三
4位	水泳・競泳	男子 200m個人メドレー	藤森 太将
4位	体操・体操競技	男子 種目別ゆか	白井 健三
4位	体操・体操競技	女子 団体	村上 茉愛
5位	水泳・競泳	男子 200m平泳ぎ	小関 也朱篤
5位	水泳・競泳	男子 4×100mメドレーリレー	小関 也朱篤
5位	体操・体操競技	男子 種目別ゆか	内村 航平
5位	レスリング	男子 グレコローマスタイル 66kg級	井上 智裕
6位	水泳・競泳	男子 100m平泳ぎ	小関 也朱篤
7位	体操・体操競技	女子 種目別ゆか	村上 茉愛
8位	水泳・競泳	女子 400m個人メドレー	清水 咲子
8位	水泳・競泳	女子 4×100mリレー	松本 弥生
8位	水泳・競泳	女子 4×200mリレー	五十嵐 千尋
8位	体操・新体操	女子 団体	杉本 早裕吏
ベスト8	フェンシング	女子 エペ個人	佐藤 希望
ベスト8	バドミントン	男子 ダブルス	遠藤 大由



○パラリンピック

銀	陸上競技(競技パートナー)	女子 マラソン	堀内 規生
銀	自転車(パイロット)	女子 タンデム 個人ロードタイムトライアル(視覚障害)	田中 まい
銅	陸上競技	女子 400m (T47)	辻 沙絵
5位	水泳・競泳	女子 50m自由形 (S5)	成田 真由美
5位	水泳・競泳	女子 50m背泳ぎ (S5)	成田 真由美
5位	自転車(パイロット)	女子 タンデム 1000mタイムトライアル(視覚障害)	田中 まい
6位	水泳・競泳	女子 4×100mリレー	成田 真由美
7位	陸上競技	女子 100m (T47)	辻 沙絵
7位	陸上競技	女子 200m (T47)	辻 沙絵
7位	水泳・競泳	女子 100m自由形 (S5)	成田 真由美
7位	水泳・競泳	女子 400mメドレーリレー	成田 真由美

日体生オリンピックが語るリオ、東京

日体大現役学生としてリオの舞台に立った選手達の中から4人に集まってもらい話を聞きました。彼ら、彼女たちの活躍はもちろん素晴らしいものですが、競技を離れば学生らしい素顔も。普段は異種の競技選手と話をする機会はないとのことでは始めは緊張も見られましたが、トークを終える頃にはすっかり打ち解け、記念写真を撮り合い、お互いの健闘を称え合いました。これからも日体生が一つになって、スポーツとオリンピックを盛り上げていきましょう。

座談会 Rio 2016



それぞれの想いで臨んだリオ

まず、リオ五輪へはどういう意気込みで臨んだか、そして競技を終えての感想をお聞かせください。

樋口 黎 金メダルを取るという決意で大会に臨みました。決勝までは意外とすんなり勝ち上がりでしたが、後一步というところで銀メダルに終わりました。その悔しさがまだ残り、未だにビデオを見直すことができません。次こそ金メダルを取るべく、今から頑張っていきます。

杉本早裕吏 昨年の世界選手権では銅メダルを獲得し、リオでもメダルが取れるポジションにいて、金メダルを目指してきましたが、ミスが出たり、全体がまとまっていなかったりして、結果8位に終わりました。ただ、そんな中でも最後まで演技ができて幸せでした。オリンピックの後、大学に来た時、友達から「よかったよ」とか「かっこよかったよ」と声をかけられて、悔しさよりうれしさが増しました。

白井 健三 とにかく団体で金を取ることを目標にしていたので、それが実現できて本当によかったです。体操団体5人のチームになってからは、決勝の日が待ち遠しかったですね。自分が種目別跳馬で銅メダルが取れたことは、団体で金を目指してきた結果だといえます。個人の銅メダルは嬉しいのですが、団体の金は最高です。

村上 愛 去年の世界選手権が5位で、チームでメダルに手が届くという気持ちになったのは今回が初めてでした。そういう気持ちで大会に臨んだので4位という成績ですが、後悔はありません。しっかりと演技ができてよかったです。

——リオではどう過ごされていたのですか。

白井 実は選手村以外のリオについてはよくわからないのです。

村上 選手村に何でもあるので、外に行く必要がないんです。もちろん食事選手村でできますし。ただ、全体的に味付けが濃い感じでした。

樋口 アイスが美味しかったです！僕は全種類のアイスを食べました！

杉本 日本食が食べたいと思いました。そういえば、私たち新体操が一番最後にリオに入って、閉会式にも出ました。そこでウサイン・ボルトを見ました！私は村上さんと部屋が同じだったのですが、体操の人たちは疲れていたし、新体操は試合がこれからだったので、残念ですがあまり話できませんでした。

村上 お互い気を遣っていたんでしょうね。

一同 リオではトイレに困りました。

競技は違っても同じ日体生

——もし他の競技でオリンピックに出るなら何の競技で参加したいですか。



村上 愛

村上 愛 (むらかみ まい)・体操競技／体育学部体育学科2年／出身：明星高校(東京)
3歳の時に母親に勧められ体操を始める。池谷幸雄体操倶楽部に小学校時代から所属し、数々のジュニア競技会に出場して着実に実力をつけていく。得意種目はゆかで、最高H難度の「シリバス」「チュンビチナ」を2つとも成功させた数少ない選手として知られ、2013年10月、アントワープで開催された世界選手権では、種目別女子ゆかで4位入賞した。日体大に入学後は、寮生活で先輩たちにもまれながらさらに急成長を遂げている。



白井 健三

白井 健三 (しらい けんぞう)・体操競技／体育学部体育学科2年／出身：県立岸根高校(神奈川)
3歳から体操を始め、小学3年の時に両親が設立した鶴見ジュニア体操クラブで本格的に体操をはじめ。日体大進学後、2015年世界体操競技選手権で37年ぶりの団体優勝に貢献、種目別ゆかでは金メダルを獲得、2015年の豊田国際体操競技大会では最高のH難度「後方伸身2回宙返り3回ひねり」を成功(国際体操連盟より「シライ3」と命名)するなど次々と大技を決めている。国内では「ひねり王子」、海外では「Mr. Twist」と賞賛される若きホープ。



樋口 健志台キャンパスの学食のざる蕎麦が美味しいです。僕の好みです。

杉本 学食といえば大きなカツカレーを一度食べてみたいですね。日体大のいいところは、私は日本代表の方で練習することが多いのですが、大学でも先生をはじめ多くの方がサポートしてくれるので本当に助かります。

白井 僕はやはり仲間に恵まれたことです。リオに行く前に仲間や同級生達にメッセージ



杉本 チームで行うスポーツ、バレーボール、バドミントンのダブルスがいいですね。

樋口 僕は、メンタルがとても重要になってくるスポーツ、たとえばアーチェリーに興味があります。レスリングは練習もきつけれど、減量はもっと辛いですね。

白井 体操はトレーニングがきつくな

て、それほど減量もしなくていいですよ。

村上 体操は短い時間だけ集中すればいいですからね。

白井 トレーニングでもあまり走らないですから。一番楽しく金メダルを取ったでしょう。僕は体操の女子に出たいです。女子の体操はアメリカがダントツに強いので、アメリカを負かしてやりたいです。

村上 私は飛び込みとかやりたいですね。でも、私、泳げないんです。

樋口・白井 エー!!(笑)

樋口 体操のマンガで『ガンバ! Fly high』って面白いんですね。あれを読んでいて、自分でもやってみようと思ったことがあるんです。それで、トカチエフとかできるんじゃないかと思ってやってみました。全くダメでした。

白井 体操はいろいろな種目があるので、ずっと二つのことだけをやるのではなく、飽きないですね。体重が重くなった場合も、体重が乗ってかえってうまくできる種目もあるんです。その日の体調にあわせて種目を変えて練習ができるのが体操のいいところですね。

村上 確かにそういうところはありますね。女子の場合はきつい減量はないけど、いつも同じ体重を維持することが求められます。

杉本 新体操は団体なので自分が調子が悪くても、とにかくみんなと同じようにやらないといけません。1日に8時間や10時間練習することもあります。

樋口 厳しいですね。僕はスパークリングでもうダメだなと思ったら、ウエートトレーニングとか違うことをします。それぞれやはり大変なところがあるんですね。

ところで、皆さんが考える日体大の魅力を教えてください。

樋口 健志台キャンパスの学食のざる蕎麦が美味しいです。僕の好み

を書いた色紙をもらい、とても励まされました。多くの仲間がいて、体操の技に關してもすぐに聞けるところがいいですね。

村上 サポートがしっかりして、競技に専念できる環境がいいと思います。

樋口 みんな立派なことを言いますね。学食のざる蕎麦がいいというのは、僕くらいですか(笑)。

東京を、トップを目指し続ける

さて、リオ五輪が終わったばかりですが、2020年の東京大会に向けて抱負などをお聞かせください。

樋口 レスリング競技をやっている限り、「偉業」を成し遂げたいと考えています。リオで金メダルを取れば最年少金メダリストだったので、それが叶いませんでした。これから2020年まで世界選手権で3回トップを取り、トップを維持しつつ東京では金メダルを目指します。

杉本 じつは私はリオで競技としての新体操をやめようと思っていました。でもメダルに手が届かなかったため、続けることに決めました。今はキャプテンとしてやっていますが、2020年はどうなっているかわかりません。でも、リオで経験したことを生かし、東京大会でもメンバーに選ばれ、そしてチームをまた引っ張ってみたいです。

白井 2020年の前にいろいろな大会があるので、自分にとっては4年後を考えるにはまだ早い気がします。体操の場合は(内村)航平さんがいるので、航平さんを目指せば自分も、そして日本の体操のレベルも自ずとレベルが上っていくと思います。今回、オリンピックで金メダルを取ったので、記録というところでは、これ以上のもはないので、人の記憶に残る美しい体操をしたいと考えています。報告会で航平さん以後継者として指名されたので、2020年では自分がチームを引っ張る存在にならなければならないと思います。

村上 リオ五輪を経験して、東京大会への思いが一層強くなりました。今度こそ、メダルを取ることを誓います。そのとき私は年齢的に上の方になると思うので、大変だと思いますがコツコツ頑張っていきたいです。

4人の方の今後楽しみですね。ありがとうございました。



Rio 2016 Olympic Games

杉本 早裕吏

杉本早裕吏(すぎもと さゆり)・新体操/体育学部体育学科3年/出身:名古屋経済大学市邨高校(愛知)

2015年9月にドイツで行われた世界選手権で「フェアリージャパン」の主将を務め、団体種目別(リボン)で銅メダルを獲得。世界選手権でもメダル獲得は40年ぶりという快挙を成し遂げ、リオ五輪への出場を決めた。「リボン4本投げ」は、杉本がリボンで描いた輪の中へ他の4選手がリボンを投げ入れ、それを4本同時に投げ返すという日本だけの大技。今年のその他の活躍は、2016年アジア新体操選手権 団体総合 1位、モスクワグランプリ 団体総合 3位など。

樋口 黎

樋口黎(ひぐち ちい)・レスリング/体育学部体育学科3年/出身:霞ヶ浦高校(茨城)

日本人男子選手で20歳でオリンピックに出場するのは、1988年ソウル五輪のフリースタイル130kg級に小幡弘之が19歳で出場して以来の若さ。正確な記録が残っている1980年ローマ五輪以降、歴代6位の若さとなる。また、オリンピックに学生選手が出場するのもソウル五輪に小幡ら3選手が出場して以来の快挙。「プレッシャーのある方が力を発揮できる」という強心臓の持ち主。日体大では栄養学を学ぶなど食生活を改善して急成長成果を出した。

スポーツは、世界共通の人類の文化。
国際平和・交流の架け橋となる人材を輩出する。

スポーツ文化学部 2017年4月新設

スポーツ文化学部

- ・ 武道教育学科
- ・ スポーツ国際学科



○スポーツ文化学部新設の背景をお聞かせください。

グローバル化や情報化が進み、社会・経済・文化の様相が大きく変わってきました。変化が加速する中で、国際社会が相互に信頼し共生を目指していくことは極めて重要です。教育においても、他者の文化を理解・尊重し、コミュニケーションを図っていく能力の育成がいつそう求められています。国も各大学が特徴を發揮した教育・研究を展開することを推進しており、体育・スポーツを基軸として社会貢献・国際貢献を展開してきた本学がスポーツ文化学部を設立することは、時代の要請に応えた必然の流れと言えるでしょう。

スポーツ基本法の前文は「スポーツは、世界共通の人類の文化である」という言葉から始まります。スポーツが果たす役割がますます重要になっていることは周知のことであり、本学が存在を示す機会も広がっています。例えばJICAの青年海外協力隊の派遣実績では、平成27年度までの出身大学別で本学は8位と上位に入っており、このニーズは今後も高まっていくだろうと思われます。このような期待に応え、①スポーツを通じた国際相互理解の促進、②スポーツによる国際協力援助、③日本の武道を理解し海外への普及を推進できる人材の育成、④国際社会においてスポーツによる国際協力支援と国際交流を推進する人材の育成を目的に開設しました。

○特徴的な科目はなんでしょう？

国際協力・交流や国際開発援助の中核的役割を担う人材を育成する「スポーツ国際学科」では、スポーツに社会学や文化人類学的にアプローチするとともに、「スポーツ国際概論」「スポーツフィールドワーク論」「アジアのスポーツ文化」「欧米のスポーツ文化」「ニュースポーツ論」など、これまでの本学にない特徴的な科目を揃えました。これらは理論ばかりでなく、「スポーツフィールドワーク実習」や「ニュースポーツ実技」等へと展開し、体験的に学ぶことができます。

また、語学については既存のカリキュラムをベースとしながらも、国際交流センターの「GlobalGate」（ネイティブ英語講師による英会話スペース）を改編して充実を図っていく計画です。さらに英語や現地語で行う体育の授業も導入します。ただ、誤解を恐れずに言



スポーツ文化学部 学部長
八木沢 誠 教授

えば、国際協力等に参加するにあたり英語は必要ですが、実際は高い語学力がなければ活動できないというものでもありません。多くの開発途上国では現地語が話されているでしょう。むしろ求められるのは度胸です。日体生はスポーツのいろいろな活動や場面を通して精神力が鍛えられていきますから、この点で非常に強みになるでしょう。

○スポーツ文化を学ぶ意義はなんでしょう？

一方で、「武道教育学科」は体育学部武道学科がベースになっています。海外に出ていく日本人が増える中で、あらためて自国の歴史や文化を理解する必要性が再認識されており、意義深い学びができるでしょう。現在私は武道学科で指導にあたっていますが、学生はどうしても競技、勝ち負けを意識しがちになります。反対に外国人は、純粋に武道という日本の伝統文化を学びたいという意識が強いようです。もちろん勝つために稽古や練習をしているわけですが、海外に行けば「日本の文化を紹介してください」「あなたは武道をやっていますか」という話しに必ずなります。スポーツを文化としてとらえ、国際交流の重要なツールとして誇りをもって勉強してほしいと思います。

その意味で「礼法」は重要な学びのひとつです。側隠の情、つまり常に相手を思いやる気持ちは日本人の礼儀正しさの礎になっています。外国人から見ると日本人の特徴的な考え方や行動であり、私たちも外国に行つてその良さにあらためて気づくことがあります。

スポーツ文化学部を もっとよく知る 5つのキーワード

keyword ①「国際協力」

JICA（国際協力機構）は日本の政府開発援助（ODA）を一元的に実施する機関。事業のひとつにボランティア派遣があり、青年海外協力隊もこれに含まれます。本学は2014年にJICAとボランティア事業に関する覚書を締結。おもな活動目的は開発途上国における体育・スポーツの普及・振興、具体的には体育教育の改善やスポーツ指導などに携わっています。スポーツ文化学部では「スポーツのODA」を支える知識と技術の習得を目指します。

keyword ②「日本の精神・文化」

武道教育学科では、我が国固有の身体運動文化である武道や、武道と関連性のある日本舞踊、民俗舞踊、和太鼓などの伝統芸能について、技術や理論を学びます。「道」の思想を核に、「芸道論」「武道論」「武道教育論」「武道技術論」「稽古論」「比較武道文化論」など特徴的な科目を配置。日本の「道」の精神を理解し技術や理論とともに指導できる能力を身につけるとともに、武道や芸道を通じて国際交流や社会貢献のできる人材を育成します。

keyword ③「実習・実技」

体育・スポーツを指導する上で最低限必要とされる運動能力を養うため、基本的な体育系運動種目について実技の授業で学びます。また、スポーツ文化を学ぶ学外・海外での実習も充実。武道教育学科では、国際普及や国際交流に関わる科目を選択必修科目として配当し、海外において実践的な実習を行います。スポーツ国際学科では、春季休暇期間を利用したJICAとの連携による「開発途上国へのボランティア派遣事業」を展開予定です。

keyword ④「異文化・スポーツ理解」

スポーツ国際学科のユニークな授業科目のひとつが「エキスニックスports実技」。民族（伝統）スポーツの実践を通して、ミャンマーに関する理解を深めたり、ビルマ語に触れてコミュニケーション能力を養います。また、「スポーツ国際実習」や「スポーツ国際支援実習」など実践的な科目を配し、たとえば道具をいっさい使わないでスポーツを指導する技術など、未知の環境における活動を有意義なものにするための学びを展開していきます。

keyword ⑤「留学」

海外留学は、参加にあたって、他学部同様に学内規程に基づいて審査を受け、合格することが必要になります。本学の国際交流センターにおいて、学術・スポーツ交流（交換留学制度）や短期語学研修プログラムなどを実施しています。交流協定校は、ドイツ・中国・韓国・モンゴル・ブラジルなど、現在14校と協定を交わしています。国際交流センターはJICAボランティア希望学生への支援や海外派遣事業の紹介なども行っています。



スポーツはもちろん、衣食住など私たちにとってあたりまえの文化が、外国人の目にはとても新鮮に映るのです。

○将来どのような活躍の場が想定されますか？

「スポーツ国際学科」では、国際社会の中で日本の精神文化に立脚したスポーツ指導を実践し、スポーツを通じた国際協力・国際交流・開発援助を促進するための知識や技術の習得を目指します。このため、国内外の民間企業、国や自治体等の公務員、国際競技連盟や青年海外協力隊など多岐にわたる進路が期待されます。また「武道教育学科」は、教員や警察官・公務員などの公務員、実業団など、武道の経験を活かした進路が想定されます。両学科とも中学校・高等学校教諭二種免許状（保健体育）の申請を行っています。

○どのような学生の入学を期待しますか？

オープンキャンパスなどで受験生に接していると、得意な英語を活かしたいという声をよく耳にします。中学・高校時代に短期であっても留学経験があり、海外での仕事やスポーツを通じた仕事に興味をもったというケースも多いようです。また、トップレベルの選手で

はないけれど体を動かすことが好き、ボランティア的な活動に興味があるという人もいます。「海外に行ってみよう」という強い気持ちをもっている人は、ぜひ門を叩いてほしいと思います。

現在の武道学科でも、柔道でJICAにより世界の国々に派遣されている学生がいますし、剣道では3、4カ国と交流を続けています。また、空手も東京オリンピックの種目に採用が決まりましたので、海外との接点が増えていくでしょう。国内だけに限定するのではなく、広い視野をもって柔軟に考えることができ、エネルギーはつらつとした学生たちと一緒に新学部をつくりたいと考えています。

入学してきた学生が初期の目標を達成できるよう教育環境を整えることが私たちのいまの使命です。皆さんには部活動にも競技やマネジメントで積極的に関わってほしいですし、海外にもどんどん出て行ってほしいと思います。とにかく、大学の中だけでは学べないことをたくさん吸収できる学部です。将来、経験を持ち帰って日本で活躍する時にも、自分のキャリアとして貴重な財産になっているはずです。

夢を追い続ける。そして、忍耐。日本の女子レスリングを牽引してきた 名指導者が語る壮絶な「自分との闘い」。

リオデジャネイロ五輪でも女子レスリング勢の活躍が脚光を浴びた。これまでも数々のメダリスト、世界チャンピオンを輩出し、そのうち2人が国民栄誉賞を授与された。彼女たちを育て上げたのが、日体大レスリング部OBの栄氏である。女子レスリングが五輪の正式種目に採用されたのが、2004年のアテネ大会から。まさに女子レスリングの栄光の歴史を牽引してきた。その原動力となったのは、挫折とその克服へ向けた自分との闘いだったという。リオ五輪報告会当日、後輩たちのために胸襟を開いて語ってくれた。

プレッシャーに弱い自覚

日頃から日本女子レスリングに対して声援をいただき感謝しています。また、母校の学生、関係者の方々の活躍を心から祝福いたします。30数年前、私は教員になりたいという思いを持っていて、高田裕司先生から声をかけていただき、日体大に入学しました。いま、教え子のメダリストとともに華やかな舞台に立つことも多くなりましたが、これまでの道のりではさまざまな苦労がありました。今日は包み隠さずお話ししたいと思います。

鹿児島から上京して日体大に入学。レスリング部に入学しました。当然、厳しい練習に加え、1年生は食事・洗濯・買い物・風呂の当番があります。少しでも行き届かないと先輩に気合を入られました。東京に出てきたばかりで右も左もわからなかった私は、「自分が耐えられるかどうかかわからない。レスリングを辞めたい」と思ったことも事実です。藤本英男監督（現・名誉教授）から諭されたこともあつて思い留まりましたが、しばらくは世界選手権やオリンピックなどということはまったく頭になく、「教員になるために大学だけは卒業したい。どうしたら続けられるか」ということばかり考えていました。

大学3年生になっても同じような状況でした。高校の時、私よりも弱かったはずの同級生がイン



活躍する OB

至学館大学女子レスリング部監督
日本協会強化本部長（日本レスリング協会）

栄 和人氏 INTERVIEW

（栄先生からの特別アドバイス）

厳しくすべき時には厳しく。指導に競技や男女の違いはありません。好かれようとか、物分りの良い指導者であろうかと思うこと自体が誤解。なにを伝えたいのか、なにをすべきなのか、選手のことを本当に考えて発した言葉こそが人を動かします。厳しくとも、そういう言葉をかけられる指導者であってほしいと思います。

カレチャンピオンになったと聞いても、焦るというより大学を続けることに精一杯でした。そんな時、国体で結果を残せば教員になる道があることを知ったのです。

目的を持つと人は変わります。大学3年生の国体は、競技へ意識が集中した転機でした。相手は全日本とアジアを制したチャンピオン。私は怪我をしていたこともあつて、自分から攻めずになるべく点をとられないようにガードを固めて守りに徹していました。すると相手も空回りしてきて、終了間際に私が逆転勝ちしたのです。この時、「この先輩に勝ったということは、もしかしたら世界選手権やオリンピックにも行けるかもしれない」と思うようになりました。この結果により、奈良県の教員として正式採用されました。

日体大での経験は、競技も厳しい上下関係もすべていまに活かされています。小心者でプレッシャーに弱いという私の本質的なところはいまもそれほど変わっていないかもしれません。しかし、意識や気持ちのあり方によって、自分を変えようとすることはできる。そのために頑張ればよい。このことに気づかせてくれたのが多感な時期を過ごした日体大での学生生活でした。

父の姿に愕然として 再びオリンピックを目指す

採用された奈良県では、1984年に「わかくさ国体」が予定されていた。この年にはロサンゼルス五輪も開かれます。幸いなことに、教員の身分のまま、卒業後も東京に残って、日体大で練習に専念できる恵まれた立場が許されました。卒業の翌年には全日本選手権優勝、そして世界選手権4位に。次に目指すのはロサンゼルス五輪です。

しかし、選考会が近くなると「勝てなかつたらどうしよう」と再び重圧が襲ってきて、自分が自分でないような感覚になりました。試合前日や当日には「勝つても負けてもいいから早く終わってほしい。早く逃げ出したい」とさえ思いました。

結局、力を半分も出しきれず敗退。その時はなぜか悔しさもありませんでした。そして後日のこと、深沢の近くのお店に行くと、顔見知りのお客



栄 和人 (さかえ かずひと) 1983年、体育学部卒。鹿児島商工高等学校 (現・樟南高等学校) 出身。1986年アジア大会 (韓国) 2位、1987年世界選手権 (フランス) 3位の後、1988年ソウル・オリンピックへ出場。全日本選手権は6度優勝し、世界選手権は出場した5大会すべてで5位以内に入賞。1996年に愛知県・至学館高等学校 (旧・中京女子大学附属高等学校) に赴任。以後、同校及び至学館大学 (旧・中京女子大学) にて女子レスリングの指導に従事する。アテネ、北京、ロンドン、リオと、女子レスリングが五輪正式種目に採用された当初から指導に携わり、吉田沙保里選手、伊調馨選手をはじめ教え子が多数メダルを獲得した。現在、日本協会強化本部長 (日本レスリング協会) 等を務め、ナショナルチームの強化に尽力している。

自分の感性を すべてさらけ出すこと

その後、世界選手権5位、4位、3位と年を追うごとに成績を上げ、ソウル五輪前の世界選手権では銅メダルを取りました。吹っ切れたように楽しく競技を続けてきましたが、ソウル五輪の選考会が近づくと、再び小心でプレッシャーに弱い自分が現れてきます。しかし、そんな自分をすべて受け入れながら日本代表に選ばれることができました。五輪の結果は入賞に至りませんでしたが、父との約束が果たせた満足感からか、指導者の道を歩む決意を固めました。

ソウル五輪の翌年に大病をした時、将来についてあらためて考え、ナショナルチームのコーチをやりたいと福田富昭日本レスリング協会会長に相談したところ、これからオリンピックの正式種目になるからと勧められたのが女子の指導です。そして企業での活動を経て、現在の至学館大学・高等学校に着任し、本格的に女子レスリング指導に携わることになりました。

私の信条は「忍耐」と「夢迫人」。これは、私の生き様に基ついています。なかを成し遂げようとするれば誰でも必ず試練が訪れます。そんな時に、とかく人は投げ出したり、目標を見失ってしまったりしてしまいます。たとえ乗り越えることが叶わずとも夢を持ち続けること。そのためには辛い時も逃げずに受け止める忍耐が欠かせません。

レスリングというと闘志や執念というイメージがありますが、それは自分に向けられるものではないかと私は思います。恐れず、ごまかしたり変な駆け引きをしたりせず、自分の思いや感性を素直にさらけ出すことができる。そうすれば挫折も乗り越えることができるはずです。そういうことができる選手をつくっていきたくと思っています。

学生の皆さんもそれぞれの夢に向けて精進していることと思います。OBの一人として、皆さんの活躍に期待しています。夢を思う時、自然と胸が高まります。自分や周りの気持ちを感じ取る感性を在学中に養ってください。

さんが「残念だったな。また頑張ればいいよ」と声をかけてくれました。そこでは自分にはもう関係ないと思って深酒をしました。でも、アパートに帰ってもなかなか寝付けない。すでにオリンピック代表は他の選手に決まっています。「もう一回試合をさせてくれ。そうしたら絶対に負けない」。あんな試合をしてしまった後悔が一気に込み上げてきて、我を忘れて布団の上で足をじたばたさせて号泣してしまつたのです。それから、外に出るのも嫌になりました。練習にも行かなかつたため、監督や友人は心配してくれましたが、もうどうでもいいという気持ちでした。すべてが終わった。人生が終わったとさえ思いました。

それから2ヶ月ほど経った時のこと、ふと実家の母に電話をした際、父の様子を知らされました。幼い頃から運動会、相撲大会、柔道大会、大学時代の大会と、すべての試合に欠かさず応援に駆けつけてくれた父。そんな父が食事は喉を通らず、仕事が手につかず、15キロも痩せてしまっているというのです。憔悴した父や傍で見ていて心配

興味を持ったら行動してみること。経験豊富な先生方や先輩たち、海外で活躍する日体OB・OGの人脈が皆さんを支えてくれるはず。

国際舞台での活躍はアスリートだけではない。スポーツを通して、さまざまな形で海外の人々と交流したり国際貢献に携わることができる。教員という職業も例外ではない。中国・上海とタイ・バンコクの日本人学校で教員として活躍してきた桑山さん。在学中、部活動やアルバイトに励むごく普通の日体生だった彼女が大きな夢を実現できたのは、思い切って行動したからこそ。スポーツが好き、子どもが好きという気持ちは多くの日体生が持っているだろう。勇気を持って挑戦すれば誰にでもチャンスがあるはずだ。

ボランティア経験から海外勤務を志す

今年はおリンピック・パラリンピックイヤー。日体大勢、日本選手の活躍に胸が踊りました。スポーツは世界をむすぶ文化であるとあらためて感じます。スポーツを通して諸外国の人々に日本という国についていっそう理解を深めてもらったり、日本の得意な競技を指導・普及することで国際社会に貢献することもできるでしょう。

教員の活躍の場も決して日本国内に限りません。私の経験談をお話することで、皆さんの将来を考える視野を広げるきっかけになればと思っています。

私は日体大を卒業後、上海日本人学校に保健体育教員として2年間赴任しました。その後、バンコク日本人学校に移り、養護教諭として勤務して3年目になります。

日体大に入学したのは、やはり教員やスポーツ関係の仕事に就きたいと思ったからです。中高一貫校で過ごし、部活動はサッカーに打ち込んでいました。スポーツが好きだったことはもちろん、当時出会った養護の先生が日体大出身で、お話を聞いていくうちに日体大で学びたいと思うようになりました。

短大(女子短期大学部)から、健康学科に編入



活躍する OG

バンコク日本人学校
養護教諭

桑山 瑠美氏
INTERVIEW

学し、中学校高等学校の保健体育と養護教諭の免許を取得。教員採用試験も受けましたが、チャンスがあれば海外の日本人学校で働いてみたいと思っていました。きっかけは、学生支援センターで紹介を受け、青葉区内の小学校でボランティア活動をしたとき、帰国子女の生徒と接したこと。ここで日本人学校の存在を知り、日本に帰国した後の学習や生活に不安を抱える子どもたちの支えになりたいと思ったのです。また、在学中にカンボジアでボランティア活動に参加した経験もありました。そこで、どうしたら日本人学校の教員になれるのかいろいろと調べて挑戦し、合格することができました。

思えば、好奇心やチャレンジ精神は旺盛だったと思います。スポーツに打ち込んでいると、どうしても自分の競技だけに意識が集中して、視野が狭くなりがちです。でも、私が勤務しているタイのバンコク日本人学校には約3000人の児童・生徒がいます。バンコクだけでもこれだけ多くの日本人が活躍しているのです。それだけグローバル化が進んでおり、海外で生活しているとその現実を肌で



感じます。教員を目指す人も、民間企業への就職を目指す人も、国内だけの進路に目を向けるのではなく、海外語はもちろん勉強しておいたほうが良いですが、皆さんには「スポーツ」という世界共通の素晴らしい言語があります。チームワークやコミュニケーション能力に優れた日体生なら、どのような国や人々からも歓迎され、国際舞台で活躍することができるでしょう。

国ごとに違う苦労、面白さ

上海からバンコクに移ったのは、養護教諭の仕事がなかったこと、違う国も見てみたかったから。国により、環境により、それに合わせて指導を工夫しなければいけない難しさはありますが、それがまた面白さでもあります。

上海で保健体育教員として勤務していたときは、大気汚染対策に苦労しました。自動車の排ガスや工場のばい煙などから発生するPM2.5は



泰山 瑠美(くわやま るみ)／日本体育大学女子短期大学部体育科から、体育学部健康学科2年次に編入学。2012年卒。横浜国際女学院翠陵中学・高等学校(現・横浜翠陵中学・高等学校)出身。大学時代はラクロス部に所属。4年生のときに、大学選手権優勝を果たす。卒業後、上海日本人学校を経て、現在はバンコク日本人学校に勤務。オフは週1回タイ語のレッスンに通うほか、日本食や世界各国の料理の食べ歩きが楽しみ。また、ブーケットやタオ島などタイはビーチに恵まれていて、ダイビングで美しい海を満喫している。

大きな問題になっています。室内で子どもたちが楽しめる活動をさせたいと思いましたが、日本人学校は小学校と中学校が同じ施設を使っていることも多く、なかなか体育館を確保することができません。そこで小さな空き教室を使ってサッカーをするなど、知恵を絞って授業を行いました。

バンコクでは、約3000人の児童・生徒を4人の養護教諭で担当しています。教員により考え方ややり方が一人ひとり違うので、それぞれの個性を活かした取り組みができればと思っています。養護教諭は授業を持っていませんから、子どもたちとどう関わるかがとても重要です。登校時や下校時にあいさつに立つて様子を観察したり、全員の児童・生徒と接することができる健康診断のときに保健指導を取り入れたり、折に触れて健康管理の大切さを呼びかけています。

また、力を入れていることに、保健委員会の活動があります。養護教諭だけではできないことに限りがありますから、クラス2名の保健委員に協力を求めて、感染症予防などに努めています。その結果、感染症の罹患者が減少するなどの成果があ

り、保健委員の子どもたちもやりがいを感じているのではないのでしょうか。そのほか、保健だよりを制作し、月間の保健目標の周知を図るとともに、たとえば一時帰国する子どもたちが多い8月には、熱中症対策など、インターネットで入手した日本の情報を提供して注意を促しています。

日本人学校は基本的には日本人社会の中での仕事ですが、子どもを病院に連れていくときなどは、現地の言葉が話せれば通訳に頼らず微妙なニュアンスを伝えることができます。いまタイ語の勉強をしています。医療関係の言葉はなかなか苦労します。やはり、いろいろな面で日本人の先生方との協力が欠かせません。日本人学校は日本全国の都道府県で経験を積んだ先生方が派遣されてきていますから、さまざまな経歴や知見を持つ先生方とお話しする機会があったり、異なる指導法を知ることができたり、とても勉強になっています。

勇気を持って行動してみる

バンコクでは研修の一環として、現地の学校で授

業をする機会がありました。純粋な気持ちで授業を受けてくれる子どもたちが愛おしく、輝いて見えました。そんな経験もありましたし、これまで自分がやってきたことを新しい環境で活かしてみたいと思って、JICAの青年海外協力隊に応募。来年からガーナに派遣されることが内定しました。そこでは、養護教諭の仕事が普及させるため、学校を巡回して保健指導に携わることになっています。

もう少し海外で頑張つて、東京オリンピック・パラリンピックは何かしらの形で関わりたいというのがいまの希望です。これまでの経験は、今後日本で教えるときにもきっと役立つと思っています。

日体大時代は、ラクロス部の活動、スポーツジムのインストラクターのアルバイト、教員採用試験などの勉強に忙しく過ごしていました。やはり印象的なのはラクロス部の思い出です。厳しい練習を仲間と支えあつて乗り越えた経験がありましたから、海外に赴任して日本に帰りたいと思つたときも、頑張ろうと気持ちを奮い立たせることができました。いまでもラクロス部の仲間とは連絡をとっています。バンコクで後輩が試合に出場すると聞いたときには観戦に駆けつけ、自分の現役時代を思い出して元気をもらいました。

上海やバンコクでも日体大のOB・OGが活躍しています。日体大の人は国内だけではなく、です。いまの職場にも日体大出身の先生がいらつしやいますし、仕事以外の現地の友人にも卒業生がいますので、とても心強く思っています。ですから、皆さんも安心して挑戦してほしいと思います。興味を持ったらずまず実際に海外に行つてみて、合う合わないかはその後で決めればいいのではないのでしょうか。迷わず、行動してみることが大切です。海外で活躍された先生方やJICAで活動した先輩の話聞く機会に参加してみても良いと思います。日体生がスポーツの外交官のようになれたら素晴らしいですね。



保健医療学部
整復医療学科

久保山和彦 准教授

柔道整復というと接骨院の開業など限定的なイメージでとらえている人も多いでしょう。しかし、スポーツや健康への関心が高まる中、活躍の場が広がっています。どのように発展を遂げてきて、どのような可能性があるのか。臨床現場での経験も豊富な久保山先生に紹介していただきます。

柔道整復という歴史が古いイメージがありますが、本当にそうでしょうか。日本古来の柔術や骨つぎといった文化を継承しているという点では確かに伝統医療と言えますが、いまの形が成立したのは明治期のことなのです。日本が近代国家への道を歩み始める中で、明治7年に「医制」（医療制度や衛生行政に関する法令。いわゆる医師免許の制度の始まり）が公布されました。ここでは伝統的な医療や文化を否定するような面もありました。こうした影響を受けて、現代的な考え方や学問的基礎を取り入れて新しく生まれ変わったのが今日言う「柔道整復」なのです。ですから、その点ではもしかしたら伝統医療とは言い切れないかもしれません。今回の話では、柔道整復について正しく理解していただくとともに、先入観や誤解を少しでも解いていただけたらと思います。さらに日体大という恵まれた環境だからこそ、将来の活躍の可能性がますます広がっていることをお伝えします。

プロフィール:久保山和彦(くぼやま かずひこ)／長野県出身。日本体育大学体育学部武道学科(柔道)及び日体柔整専門学校卒業。その後大学院研究生として大学院に在籍して医療人類学の研究を開始する。柔道整復師としての活動においては、押切整骨院勤務、木村整形外科医院勤務を経て久保山接骨院開院。その後日本健康ビジネス専門学校柔道整復学科専任講師、神奈川柔整専門学校、京都医健専門学校、北海道ハイテクノロジー専門学校、盛岡医療福祉専門学校など柔道整復師養成施設において非常勤講師。また、長野救命医療専門学校(専任講師)において柔道整復師、救急救命士の指導。大学においては、上武大学スポーツマネジメント学科非常勤講師(リハビリテーション論)、環太平洋大学体育学部准教授を経て現職。

常識”を見直せ！ 性を徹底検証

Q 柔道整復はどのような流れで進展してきたのでしょうか？

まず、「柔道」と「整復」に分けて見ていきます。柔道の祖先是「柔術」であり、その中に「活法」と「殺法」がありました。活法は人を活かしたり蘇生したりする意味で、殺法はいわば競技と読み取れます。また、整復も江戸時代からいわゆる「骨つぎ」として医療が継承されてきました。柔術と整復の2つの流れが江戸時代から続き、冒頭に述べたような明治期で交差します。これらが「医制」の影響を受けて、一方は整形外科のような医師の仕事に、他方では柔術と骨つぎが融合して柔道整復師の仕事になっていったのです。そして、明治15年に講道館柔道が創始されます。「柔術」から「柔道」と呼ばれるようになり、ここで柔道と整復の両方をやっていた人たちが、いまの柔道整復の源流となったと考えられます。つまり、柔術の流れを汲むものでありながら、医制によって公的な立場のもとに置かれるようになったのです。制度としては大正9年に「柔道整復」という言葉が登場してきます。

Q 柔道整復師のイメージはどう変わってきていますか？

柔道整復とは、簡潔に言えば、痛みに関することはなんでも扱う比較的現場向きの医療です。道場と施術所が一体となって経営され、すぐに対処できるというのはその例でしょう。それが徐々に医療に特化するようになってくると施術所の分化が起こり、柔道以外のスポーツに関わる人たちも多く携わるようになってきます。スポーツ現場で幅広く活かそうという目的の施術者が増えてきているのが今日の傾向です。その活動は、スポーツトレーナーの仕事にもつながっていきます。怪我に対する治療はどのような現場でも必要とされることであり、それだけ多様性を秘めていると言えるでしょう。その伝統性はもはや名前に残るのみで、もしかすると「柔道整復」の「柔道」という語も不要になる時代がくるかもしれません。しかし、伝統性に根差したものであることは確かであり、また、患者だけでなく人そのものを診るという点で、柔道整復のもつ精神性や人間観は特徴を発揮するでしょう。

Q 柔道整復はスキマ産業、とはどういうこと？



『柔術生理書』(明治29年)に書かれた「昔の接骨術」

- ・意外と新しい!? 現在の柔道整復の方向性は明治期に形作られていった。
- ・怪我を治すだけでなく、予防・回復においても貢献できる。
- ・いまやスポーツや医療・福祉等の現場で活躍の舞台が広がっている。

Q 怪我が起こる前から 柔道整復師の活動は始まる?

怪我や故障について考えてみると、「予防」「治療」「回復(リハビリ)」という流れがあります。柔道整復は、骨折を治す、脱臼をもとの関節に戻すといった「治療」が、活動の本来の主体です。しかし、柔道整復の世界でも予防について研究しようという動きが活発になっています。つまり、怪我をしないようにするにはどうすればいいかという点です。その点で、治療をする立場は、なぜそこが壊れたか、発生の原因やプロセスがよくわかるので、効果的な提案をすることができます。

予防の観点で柔道整復師が指摘できることは、たとえばストレッチング、運動の量や質の改善、フォームの改善などが挙げられます。競技者で言えば、体のオーバーユースや間違った使い方について、ふつうの人の予防や健康管理に対してはスポーツの前に準備運動を行うことや日常的に適度な運動を行うことなど、アドバイスは多岐にわたります。社会的にも生活習慣病の予防が重要になっていますから、柔道整復師の活動の多様性はますます広がっていくでしょう。日体大では子どもから高齢者まで、幅広い年代や目的のスポーツを学ぶ学部がありますから、これらの知見も教育や研究に活かすことができます。



国際武道学会(ポーランド)において、
柔術活法についての発表(2014)

関連資格についてもっと教えて

機能訓練指導員は、日常生活を営むために必要な機能を回復、または現状の能力の維持や衰退防止のための訓練を行う仕事。運動器リハビリテーションセラピストは、医師や理学療法士の指導のもとに患者に対して治療やリハビリを行うもので、診療報酬の加算対象となるため取得が推奨されている。いずれも柔道整復師が受験資格の一つ。

柔道整復師の“ その歴史と可能

柔道整復の研究は、たとえば陸上選手の疲労骨折をどう治すか、どれぐらいの期間固定するとよくなるかなど、治療的な側面が強くなります。これは当然ですが、治療のためには診断や発生原因・プロセスの追求も必要です。これらはセプトであり、この点で競技者と身近に接することができる日体大は大きな強みを発揮します。

陸上選手の「いたみ調査」を行ったことがありますが、こうした踏み込んだ研究によって興味深い知見を得ることができます。どのような選手がどのような過程で怪我を起こすか。アスリートは故障のリスクを冒しても記録を伸ばそうと思いがちです。いわば心の問題もからむブラックボックスのような部分を、どのような状態になるとどれぐらいの日数で故障に至ってしまうのか具体的に分析することによって、休養の動機付けを示すことができます。このように柔道整復師は、選手と指導者の間に立つアドバイザー、コーディネーターのような役割を担うことができ、こうした役割は柔道整復師ならではの活動であるため、私はあえて「スキマ産業」と呼んでいます。

また部活動において、高校時代から優秀な結果を残しているトップ選手はサポート環境が整っていることが多いですが、これから伸びる選手、頭角を現しているという選手はまだまだ十分な状況にあるとは言えないでしょう。こうした無理をしがちな選手たちに効果的な予防法や治療法を還元していくことも、期待される役割ではないかと思っています。

Q 活躍の幅を広げる関連資格について教えて!

たとえば、柔道整復師として5年(900日)以上実務経験を積むと、「ケアマネジャー」(介護支援専門員)の受験資格を得ることができます。また「機能訓練指導員」は、柔道整復師取得後に講習を受けると認定されます。柔道整復師に加えて「運動器リハビリテーションセラピスト」の資格を取り整形外科病院などで働く人もいます。接骨院開業などのストレートな道もありますが、柔道整復師の資格を武器にさらに自分の進みたい方向を見極め、柔軟にステップアップしていくことができるのも柔道整復師の魅力なのです。

そのほか柔道整復師をどう活かす?

スポーツ選手のセカンドキャリア(引退後の職業)の代表的なものの一つと言える。教員や公務員などで健康教育・スポーツに携わってきた人たちが独立・開業のために目指すこともある。スポーツ、福祉や子どもに特化するなど多様な活かし方があり、日体大の幅広い分野の学びを活かし長期的な視点で目指すこともできるだろう。



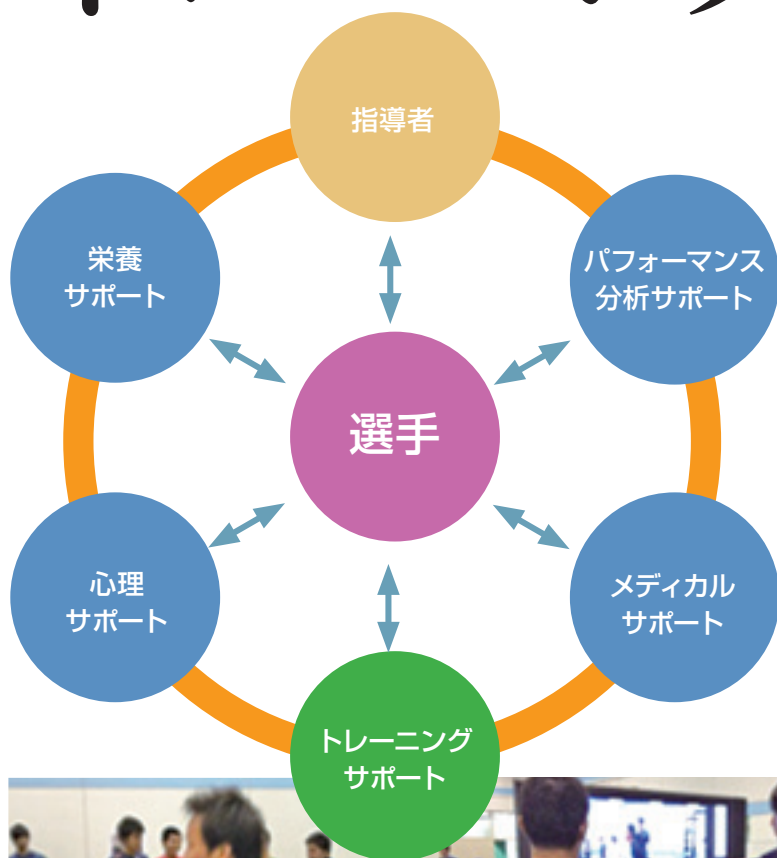
野外活動実習2016

リオデジャネイロオリンピック・パラリンピックが終了し、2020年東京オリンピック・パラリンピックに向けたカウントダウンが始まった。同大会において「70名の学生及び卒業生をオリンピック・パラリンピックアンとして輩出」という本学が掲げた目標の実現に向け、「日体大アスリートサポートシステム(NASS)」は、大きな役割を果たさなければならぬ。

まさにその基盤となるのが、今回紹介する医・科学サポートにおける「トレーニングサポート」だろう。競技種目の特性を踏まえて指導者からの要望に応じたトレーニングプログラムの作成、実施、測定評価を総合的に提供する「ストレングストレーニングサポート」、各種トレーニングの実施方法などを指導・普及する「トレーニングセミナーの開催」、スポーツトレーニングセンターやNASSが保有するトレーニング機器・ツールを提供する「フィットネストレーニングサポート」の3つの柱で展開。各クラブのピリオダイゼーションに応じてオーダーメイドでトレーニングをプランニングする「プロジェクト構築型サポート」と、セミナー等による「プログラム提供型サポート」の2つがある。トレーニングサポートでは各クラブの要望や状況に応じて、プロジェクト構築型とセミナーの両方を柔軟に提供している。2016年度は継続的なトレーニングサポートを15団体が利用。セミナーは、団体依頼3件のほか、トレーニングサポート協力学生育成と啓発活動を継続的に実施している。

NASSの挑戦 第3回

オール日体大のハブ(拠点)として基礎力向上を図る トレーニングサポート



自転車競技部



バドミントン部女子



SCTプラクティカルセミナー

トレーニングのソフト面が いっそう充実

スポーツ・トレーニングセンター（トレセン）は競技に携わる学生にとって身近な存在だろう。これまでトレセンをはじめとするハード（施設・機材）の充実が図られてきたが、NASSの発足によって、トレセンの活用や各クラブ活動などにおいて、ソフト面（トレーニングサポート）もいっそう魅力的なものになっているという。

まずは「ストレンジスポートトレーニングサポート」から見よう。主な狙いは、基礎体力、基礎筋力、つまりベースづくりである。これまでは自主的にトレセンを使ってトレーニングするというケースが多かったが、NASSのトレーニングサポートが介入することで、より体系的かつ効果的なトレーニングが実現した。NASSでは、特定競技でのサポート経験が豊富なスタッフ、さらにはトレーニング研究室、運動器外傷学研究室などと連携し、多面的なトレーニングサポートを展開している。この点でもソフト面の充実が顕著だ。

例えば、トレセンを使って自由にトレーニングしなさいと言われても漫然としたものになってしまう懸念がある。一方で専門的なサポートによって、目的をはっきりさせた上でその目的に適したトレーニング負荷、レスト時間を設定することで、よりトレーニング効果を高めることができる。トレーニングによって得られる効果を知識



ラグビー部男子



ラグビー部女子

としてしっかり理解しながら行うことが重要なのだ。クラブからの依頼を受けてトレーニングプランを構築する場合、どこにピークをもっていくかについて、ヒアリングすることから始めるのもそのためである。トレーニングサポートを活用した選手・指導者から、体格が良くなった、瞬発力が上がった、怪我の頻度が低下したなどの声が寄せられているという。

クラブからの依頼によって継続的にサポートが展開されることも高い効果に結びついている。一例を挙げれば、自転車競技部では、2013年11月からトレセンスタッフが週2〜3回の継続的サポートを実施。2015年4月からはNASSトレーニングサポートとして従来同様の頻度で継続。競技に必要な基礎能力の向上、正確なフォームの習得、トレーニングにおける怪我の予防を目標にしている。結果としては、パワー・クリーン・スクワットなどにおいて多くの学生の最大挙上重量が向上するなど、トレーニング効果が現れている。また、バドミントン部男子では週2回のサポートを行い、2016年度秋リーグ優勝に貢献した。やはり、トレーニングはいかに継続して粘り強く行うかが重要と言える。

アスリート・サポート学生問わず 幅広くセミナーを提供

一方「トレーニングセミナー」については、各クラブからの依頼による内容の実施、トレーニングセンターによる啓発活動としてのSTCプラクティカルセミナー、今後のNASSトレーニングサポートを担うであろう、サポート協力学生育成セミナーの3つが展開されている。例えば、レ

スリング部では1年生に対して、日頃クラブ活動で実施するトレーニング種目のフォーム指導を行った。

今後、力を入れた取り組みのひとつとして、指導者を志す学生の育成があるという。トレーニングサポートでは、サポート協力学生・院生もスタッフの一翼を担っている。サポートを拡大させるためには人材の育成が必要であり、一般学生向けのトレーニングセミナーを開催しているが、まだ十分に浸透していないのが現状だ。トレーニングの基礎的な知識を学ぶ啓発活動としてのSTCプラクティカルセミナーにインターンのようなシステムを取り入れ、理解を深める機会を提供していくことも構想中である。また、教育サポート（セミナー）の中で展開していくことも有効であり、この秋にも新しい試みが始まる予定である。

ここまで、トレーニングサポートの概要を紹介してきたが、選手、一般学生のいっそうの活用を期待するのは言うまでもない。選手にとつては、まず目標を立てること。それに向かっただけをすべきかをきちんと考えた上で実行していく。プロセスが明確でなければ効果を実感できないだろう。体系的なトレーニングを行うために、トレーニングサポートの存在は極めて有効だ。トレーニングは一瞬でパフォーマンスを向上させられる魔法ではないことをよく理解し、選手個人が粘り強く取り組むことが重要であり、そのためにスタッフをうまく活用して知識を吸収してほしいという。そして、指導やサポートの面で活躍しているものを4年間という限られた時間の中で、いかに活用するかによって高いレベルの知識・技術を身につけることができるだろう。広く門が開かれていることをあらためて強調しておきたい。

日体大が誇る各分野が連携し いっそう充実したサポートを

NASSのサポートにおける日体大の強みは、まず競技スポーツやトレーニングを実践してきた人材が携わることで、実技指導や模範演技が高いレベルでできることや選手の立場を理解した親密なコミュニケーションがとれることだろう。

加えて、メディアカルや心理や栄養などの各分野でも優れた知見を有している。パフォーマンス分析によって問題への理解を促し、動機付けを行い、栄養やメンタルなどさまざまな角度から効果的なアドバイスを行うことでトレーニングがさらに効果的になる。こうした体やスポーツに関わる各研究や実践が学内でひとつになつて展開されていることも日体大の大きな強みとなる。その点で、分野間連携をいっそう強化していくことが重要になってくると思われる。

トレーニングサポートは、筋力、パワー、持久力だけではなく、スピード、バランス、コーディネーションなどの機能を総合的に高めていくという、極めてベーシックかつ重要な役割を担っている。それだけに、さまざまな角度から行われる医・科学サポートにおいて、ハブ（拠点、接点）となる役割を担っていると言えるのではないだろうか。今後の国内外の各大会、2020年の東京オリンピック・パラリンピックでの選手の活躍、そして優れた指導者スタッフを輩出するために、有機的な活動が期待されている。



バドミントン部女子

団体名	大会名	結果	選手	
【クラブ】				
アーチェリー部	第55回全日本学生アーチェリー選手権大会(RC女子)	優勝	中村 純銘(2)	
	第55回全日本学生アーチェリー選手権大会(CP男子)	優勝	遠藤 優(4)	
ウエイトリフティング カヌー部	第13回全日本学生ウエイトリフティング選抜大会(75kg超級)	優勝	粟野 稚佳子(1)	
	第52回全日本学生カヌースプリント選手権大会 WC-1 500m	優勝	久保田 愛夏(2)	
	第52回全日本学生カヌースプリント選手権大会 WC-2 500m	優勝	内田 沙月(2)、久保田 愛夏(2)	
	第52回全日本学生カヌースプリント選手権大会 K-1 500m×4	優勝	本間 誠(4)、井上 暉央(3)、宮永 翔平(3)、三浦 伊織(1)	
	第52回全日本学生カヌースプリント選手権大会 K-1 200m	優勝	井上 暉央(3)	
	第52回全日本学生カヌースプリント選手権大会 WC-1 200m	優勝	久保田 愛夏(2)	
	日本カヌースプリント選手権大会 WC-1 500m	優勝	久保田 愛夏(2)	
剣道部	第50回全日本女子学生剣道選手権大会	優勝	小川 萌々香(2)	
自転車競技部	第18回全日本学生選手権クリテリウム大会	優勝	岡本 二菜(1)	
	第28回全日本学生個人ロードタイムトライアル自転車競技大会 女子個人ロードタイムトライアル	優勝	古山 稀絵(1)	
	湾岸サイクルフェスティバルクリテリウム クラス1	優勝	小林 泰正(4)	
	全日本大学対抗選手権大会 女子500mタイムトライアル	優勝	齋藤 望(4)	
	全日本大学対抗選手権大会 女子チームスプリント	優勝	齋藤 望(4)、岡本 二菜(1)	
	平成28年全国日本選抜柔道体重別選手権大会 男子66kg級	優勝	阿部 一二三(1)	
	2016年グランプリ・ブダペスト 60kg級	優勝	青木 大(4)	
	2016年度日本室内選手権飛込競技大会 1m飛板飛込	優勝	千歩 純一(4)	
	2017年度日本室内選手権飛込競技大会 3mシンクロナイズドダイビング	優勝	千歩 純一(4)、遠藤 正人(3)	
	第92回日本学生選手権水泳競技大会飛込競技 男子高飛込	優勝	岡島 太一(3)	
第92回日本学生選手権水泳競技大会水球競技 男子	優勝			
第92回日本学生選手権水泳競技大会 女子400mメドレーリレー	優勝	赤瀬 紗也香(4)、関口 美咲(2)、西 彩乃(4)、五十嵐 千尋(3)		
第92回日本学生選手権水泳競技大会 女子200mバタフライ	優勝	大塚 美優(4)		
相撲部	第21回世界相撲選手権大会 中量級(115kg以下級)	優勝	三輪 隼斗(4)	
	第64回全国選抜大学・実業団相撲刈谷大会 団体	優勝		
	第51回全日本大学選抜相撲十和田大会 団体	優勝		
	第41回全国学生相撲個人体重別選手権大会 75kg未満級	優勝	秋本 良太(3)	
	第41回全国学生相撲個人体重別選手権大会 85kg未満級	優勝	渡邊 晋太郎(1)	
	第41回全国学生相撲個人体重別選手権大会 135kg未満級	優勝	西澤 元康(3)	
	第41回全国学生相撲個人体重別選手権大会 無差別級	優勝	三輪 隼斗(4)	
	第70回全日本体操競技選手権大会 女子個人総合	優勝	村上 茉愛(2)	
	第70回全日本体操種目別選手権 男子ゆか	優勝	白井 健三(2)	
	第70回全日本体操種目別選手権 男子平行棒	優勝	神本 雄也(4)	
第70回全日本体操種目別選手権 女子ゆか	優勝	村上 茉愛(2)		
第70回全日本学生体操競技選手権大会 男子個人総合	優勝	神本 雄也(4)		
第70回全日本学生体操競技選手権大会 男子個人種目別平行棒	優勝	神本 雄也(4)		
第70回全日本学生体操競技選手権大会 男子個人種目別つり輪	優勝	神本 雄也(4)		
第70回全日本学生体操競技選手権大会 男子個人種目別鉄棒	優勝	神本 雄也(4)		
第70回全日本学生体操競技選手権大会 女子団体総合	優勝			
ダンス部	第29回全日本高校・大学ダンスフェスティバル	特別賞		
トリアスロン部	第9回日本学生スプリングトリアスロン選手権渡良瀬大会/2016全日本学生トリアスロン選抜大会 学生選抜団体男子	優勝		
	第9回日本学生スプリングトリアスロン選手権渡良瀬大会/2016全日本学生トリアスロン選抜大会 学生選抜団体女子	優勝		
	第9回日本学生スプリングトリアスロン選手権渡良瀬大会/2016全日本学生トリアスロン選抜大会 学生選抜女子	優勝	岸本 新菜(3)	
	2016日本学生トリアスロン選手権観音寺大会 女子団体	優勝		
トランボリン部	第51回全日本学生トランボリン競技選手権大会 個人女子Aクラス	優勝	佐竹 玲奈(4)	
	第51回全日本学生トランボリン競技選手権大会 シンクロ女子Aクラス	優勝	佐竹 玲奈(4)、土井畑 知里(4)	
軟式野球部	第30回全日本大学女子野球選手権大会	優勝		
ライフセービング部	第29回全日本ライフセービングプール競技選手権大会 女子4×50m障害物リレー	優勝	坂本 佳凧子(4)、阿形 芽生(3)、井熊 理子(4)、寺坂 恵実(4)	
	第29回全日本ライフセービングプール競技選手権大会 女子4×25m マネキンリレー	優勝	鈴木 理乃(4)、寺坂 恵実(4)、坂本 佳凧子(4)、具志堅 タ(2)	
	第31回全日本学生ライフセービング選手権大会 女子ボードレスキュー	優勝	坂本 佳凧子(4)、阿形 芽生(3)	
	第31回全日本学生ライフセービング選手権大会 男子ボードレスキュー	優勝	幡野 圭祐(4)、岸田 興喜(3)	
	第31回全日本学生ライフセービング選手権大会 女子ビーチリレー	優勝	原 未稀(4)、杉崎 友梨(2)、竹内 歩(1)、長野 文音(4)	
	第31回全日本学生ライフセービング選手権大会 女子ビーチフラッグス	優勝	石塚 円香(4)	
	第31回全日本学生ライフセービング選手権大会 女子ビーチスプリント	優勝	長野 文音(4)	
	第31回全日本学生ライフセービング選手権大会 男子ビーチスプリント	優勝	七海 元紀(4)	
	第31回全日本学生ライフセービング選手権大会 女子総合	優勝		
	第31回全日本学生ライフセービング選手権大会 男子総合	優勝		
	第42回全日本ライフセービング選手権大会 女子サーフレス	優勝	坂本 佳凧子(4)	
	第42回全日本ライフセービング選手権大会 女子ビーチスプリント	優勝	長野 文音(4)	
	第42回全日本ライフセービング選手権大会 女子ビーチリレー	優勝	原 未稀(4)、杉崎 友梨(2)、竹内 歩(1)、長野 文音(4)	
	第42回全日本ライフセービング選手権大会 男子ビーチリレー	優勝	浅野 雄也(4)、辻本 佳起(1)、玉井 颯(3)、七海 元紀(4)	
	第42回全日本ライフセービング選手権大会 総合	優勝		
	ラグビー部	太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ2016	優勝	
陸上競技部	2016日本学生陸上競技個人選手権大会 男子200m	優勝	川瀬 孝則(4)	
	2016日本学生陸上競技個人選手権大会 女子棒高跳	優勝	鈴木 里菜(3)	
	天皇賜杯第85回日本学生陸上競技対校選手権大会 女子棒高跳	優勝	鈴木 里菜(3)	
レスリング部	2016年JOCジュニアオリンピックカップ グレコローマンスタイル66kg級	優勝	中橋 涼(2)	
	2016年JOCジュニアオリンピックカップ グレコローマンスタイル96kg級	優勝	奈良 勇太(3)	
	明治杯全日本選抜選手権大会 グレコローマンスタイル59kg級	優勝	文田 健一郎(3)	
	明治杯全日本選抜選手権大会 グレコローマンスタイル66kg級	優勝	高橋 昭五(4)	
	明治杯全日本選抜選手権大会 グレコローマンスタイル98kg級	優勝	奈良 勇太(3)	
	文部科学大臣杯2016年度全日本学生レスリング選手権大会 女子58kg級	優勝	河内 美樹(1)	
	文部科学大臣杯2016年度全日本学生レスリング選手権大会 フリースタイル86kg級	優勝	松坂 誠應(4)	
	文部科学大臣杯2016年度全日本学生レスリング選手権大会 グレコローマンスタイル66kg級	優勝	下山田 培(4)	
	文部科学大臣杯2016年度全日本学生レスリング選手権大会 グレコローマンスタイル71kg級	優勝	高橋 昭五(4)	
	文部科学大臣杯2016年度全日本学生レスリング選手権大会 グレコローマンスタイル75kg級	優勝	宇野 寿倫(4)	
	文部科学大臣杯2016年度全日本学生レスリング選手権大会 グレコローマンスタイル80kg級	優勝	屋比久 翔平(4)	
	文部科学大臣杯2016年度全日本学生レスリング選手権大会 グレコローマンスタイル85kg級	優勝	塩川 貴太(3)	
	文部科学大臣杯2016年度全日本学生レスリング選手権大会 グレコローマンスタイル98kg級	優勝	奈良 勇太(3)	
	【サークル】			
セパタクロー同好会	第21回 全日本学生セパタクローオープン選手権大会	優勝		
ダブルダッチサークル	第43回ADDL世界招待選手権大会(オープン部門)	優勝		

トーマス・バッハ国際オリンピック委員会会長へー日本体育大学名誉博士称号授与

平成28年10月21日、東京・世田谷キャンパス記念講堂にて、来日中のトーマス・バッハ国際オリンピック委員会第9代会長へ日本体育大学名誉博士称号(第11号)を授与しました。授与式には、森喜朗東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会会長も臨席。また、白井健三選手(体育学部2年)がトーマス・バッハ会長へ花束を贈呈し、全学を挙げて同氏の功績を讃えました。

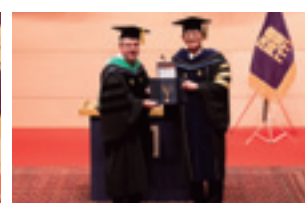


トーマス・バッハIOC会長は、1976年のモントリオールオリンピックにおいてフェンシングのフルールレ団体で金メダルに輝くなど、アスリートとして活躍してきた。選手を引退後、ドイツ国内のスポーツ団体を牽引するとともに、1996年にはIOC委員に、2000年からは副会長に就任。そして2013年に会長として就任するや、臨時総会においてオリンピック中期改革「アジェンダ2020」を採択するなど、IOCの改革を推進している。

本学の歴史は、まさにオリンピック史と共にあつたと言える。同時に、そのミッションにスポーツの「力」を基軸に国際平和の実現に寄与することを掲げている。同氏は、政治によるオリンピックへの不介入の原則を貫き、オリンピックスポーツを通して平和な国際社会を樹立しようとする理念を世界に向けて

発信してきた。また、リオオリンピックのドーピング問題に対して、グローバルズムに則ってアスリートファーストの立場を崩さず危機感を回避した。本学と志を同じくする同氏に名誉博士号を授与できることは誠に光栄である。同氏の母国であるドイツの体育組織は創設者日高藤吉郎爺が範としたものであり、同氏と本学との歴史を結ぶ縁を感じずにはいられない。

これを記念し、東京・世田谷キャンパスにオリブが植樹された。オリブは、古代ギリシア時代から「恵みの樹」「平和と平穏を象徴する樹」とされてきた。古代オリンピック以来、勇者を讃える樹でもある。同氏の輝かしい功績に敬意を表するとともに、この樹とともに本学と世界との絆が一層太く、強く育っていくことを願う。



トーマス・バッハIOC会長 日本体育大学名誉博士称号授与式



トーマス・バッハIOC会長 コメント

日本体育大学より、名誉博士号を頂けることは、大いなる光栄であります。オリンピックムーブメントを推進する者と致しまして、名門校である貴学から、このような栄えある学位を授与されることに厚く感謝御礼申し上げます。

120年以上の長きに渡り、日本体育大学は日本におけるスポーツの振興とその有用性に貢献してきました。貴学はオリンピックムーブメントとは親密な歴史を持ち、多数の在学学生や卒業生がオリンピックに出場しています。

私もオリンピック経験者として、多数のオリンピックチャンピオンを生み出してきた貴学と比類のないこのような繋がりを持つ事は、身に余る光栄であります。よって、この瞬間をあなた方と私共そして日本のオリンピック選手の方々と分かち合えることは私にとって特別な栄誉であります。

日本体育大学では、スポーツや身体活動に加え、精神教育が重んじられています。オリンピックバリューの素晴らしさ、抜きん出た特別性、対する尊敬の念(総じてオリンピズム)を教育されているおかげで、在学学生、卒業生は、日本中だけでなく世界においても活躍しているのです。この機会を借りまして、このような見解から、貴学がこの崇高なるオリンピズムの精神を若い世代にも広めていくという、重要な役割を果たしている事に感謝申し上げたいと思います。

2020年に行われる東京オリンピックは、日本においてこのオリンピズムを祝うのに最適な時であります。貴学におかれましても、世界の舞台で活躍される素晴らしい瞬間となるでしょう。選手として、またコーチ陣として、また違う分野にて、日本体育大学で学んだ知識と技術を披露する最適な時であります。

2020年東京オリンピックも、貴学の様な力によって、日本全体の変換の契機となるであろう事を強く確信しております。かつて1964年の東京オリンピックが近代日本の歴史の重要な標石となったように、2020年もまたそういった転機を迎えるであろうと確信致します。

東京オリンピック組織委員会と政府や多方面との協力体制は力強いものであります。オリンピックが今後の日本の将来にどう関わっていくかという深い展望に加え、ビジネスの方面からの力強いサポートも相まって、日本は熱狂の中にあります。日本体育大学のような才能と専門的技術を持つ心強いパートナーを持つことにより、総ての力がひとところに揃い、オリンピックの成功へと導かれて行くことでしょう。

貴学の素晴らしいスポーツの歴史とオリンピックとの密接な関係性において、日本体育大学は、2020年の東京オリンピックの成功において、多大なる貢献をされるであろう事を確信致しております。

世界のスポーツの真の価値、「オリンピックバリュー」を伝える事はオリンピックムーブメントの包括的目標です。我々は、スポーツの真髄を世界中へ広めるためのこの使命を、日本体育大学と分かち合っている事は、光栄なことであります。

今回、名誉博士号を授与して戴き、改めて感謝申し上げます。また、オリンピックムーブメントの遂行を目指す者を代表致しまして、この特別な栄誉に心からの御礼を申し上げます。

集団行動「スイス・バーゼル音楽祭」

2016年7月にスイスのバーゼルで行われた軍楽隊の祭典「Basel Tattoo (バーゼル・タトゥー)」に、日本から海上自衛隊東京音楽隊と日本体育大学が招待され、演技・演奏を披露しました。



初の海外舞台を初めての演出で飾る

日体大の集団行動は長い歴史があるなかで、スイス・バーゼル音楽祭へ招聘され「集団行動」を初めて海外で披露することとなりました。

「集団行動」は普段は音楽を流さずに行うのですが、今回は海上自衛隊東京音楽隊の演奏にあわせ演技をし、いつもとは趣の違うものとなりました。音楽を入れて歩くということでは初めての試みだったため、東京での練習の段階で音楽を変えたり、テンポを合わせたりと完成までにはなかなかの苦労がありました。しかし、学生はさまざまな要求にしっかりと応えてくれ、万全の準備をして現地に乗り込みました。

演技はまず「コンバットマーチ」で元氣よく登場し、一度音楽を止めてもらい、自分たちのいつものリズムで歩き、次は「翼をください」で躍動的な動きをし、そしてまた音楽が一度止まり、静寂の中で集団の糸乱れぬ精密な動きを披露し、最後は勇ましく「軍艦マーチ」で締めくくるといふものです。会場は20m×50mの広さがある学校の校庭で壁に日本風のイメージをプロジェクションマッピングで写し出しました。

観客は初めて見る光景に戸惑いながらも、徐々に乗ってきて、クライマックスでは鳴り止まない拍手と大歓声に包まれました。

「集団行動」は昭和45年に寮生が規律を守る心を養うため集団で歩く訓練をしたことに始まります。当初は奇異な目で見られていましたが、単なる行進ではなく、歩き方にアレンジを加え、面白く目を惹くような動きを入れることで徐々に注目されるようになりました。

そしてソチパラリンピックの開会式のオープニングアクトでロシアのダンサーを組織し、「集団行動」を披露しました。これが大きく海外の人々の目に止まり、今回の本家・日体大の



清原 伸彦

(きよはらのぶひこ)

「集団行動」監督
日本体育大学 名誉教授

「集団行動」のお披露目となったのです。

さらに進化していく「集団行動」

「集団行動」は全員が統一された歩きや動きをする集団の美であり、確かにそれは見どころの一つではありますが、「集合！」と言ったら学生みんなが一目散に集合するところや、学生が私やコーチなどの指導者の目をしっかりと見て話を聞くところも圧巻でしょう。残念ながらこれは練習の時しか見られませんが、とにかく一人ひとりがみんなと合わせようとする心を見てほしいと思います。

私は「集団行動」では4つのことを掲げています。1つ目は強靱な身体をつくることです。しっかりと歩くには体力が必要で、2つ目は気配りをする。一人が失敗してやり直すことがあります。失敗した人を責めず、その失敗を自分のこととして考え、切り替えて取り組める気持ちを持つことです。3つ目は笑顔を保つこと。うまくできれば自然に笑顔になるものです。そして最後は献身的な心を持つことです。

私は練習でも失敗した学生を責めるのではなく、間違いを指摘し指導をしています。それを聞いた学生はみんなが自分の事として受け止め、どんどん精度が上がっていきます。若い時に集団の大切さを知ると、この先どこに行っても、どんな仕事をしたとしてもやっていけます。

私にとって彼らや、これまで指導してきた学生はとても大切な財産です。そして学生が立派に成長してくれることが私の願いです。

私も「先生」と言われているうちはもつとやらないといけないと考えています。

日体大の「集団行動」に期待してください。まだまだやりますよ！

